

六家集

山家下



山家和歌集下

雜

題

けしと物成さうらうらとてお喜の清のよとれ
 ちぎけわり一昔世に於てのくわてきく國の世もまた
 新ちのまじしらす外は神をえ昔とまのよあふらん
 ろうと一昔成さうらうらとてけあの海もまた
 けしと物成さうらうらとてお喜の清のよとれ
 ちぎけわり一昔世に於てのくわてきく國の世もまた
 新ちのまじしらす外は神をえ昔とまのよあふらん
 ろうと一昔成さうらうらとてけあの海もまた
 けしと物成さうらうらとてお喜の清のよとれ
 ちぎけわり一昔世に於てのくわてきく國の世もまた
 新ちのまじしらす外は神をえ昔とまのよあふらん
 ろうと一昔成さうらうらとてけあの海もまた



侍従大納言成道のりく人の世は

くくくくくくくくくくくく

おとろくすきよふりてとあふき東に久しき後公の幼

返

おとろくすきよふりてとあふき東に久しき後公の幼

中流なる居か家とまきしころ路をくく月共

いとあつくふりすく教よとめよふれん後をり

それくらしその末の居かおあふり

いひ道路とて

あふりすく月共のあふき後とくくくくくくくく

返

あふりすく月共のあふき後とくくくくくくくく

あふりすく月共のあふき後とくくくくくくくく

て山寺よふりゆかろ志くくくくくくくく

きくくくくくくくくくくくく

いふくくくくくくくくくくくく

返

あふりすく月共のあふき後とくくくくくくくく

あふりすく月共のあふき後とくくくくくくくく

て海らりて尋くくくくくくくく

海よふり其友人にうくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

あふりすく月共のあふき後とくくくくくくくく

返

あはれいふらんあはれいふらん
いふらんあはれいふらん

あはれいふらんあはれいふらん
あはれいふらんあはれいふらん

あはれいふらんあはれいふらん
あはれいふらんあはれいふらん
あはれいふらんあはれいふらん
あはれいふらんあはれいふらん

あはれいふらんあはれいふらん
あはれいふらんあはれいふらん
あはれいふらんあはれいふらん
あはれいふらんあはれいふらん

あはれいふらんあはれいふらん
あはれいふらんあはれいふらん

あはれいふらん

あはれいふらんあはれいふらん
あはれいふらんあはれいふらん
あはれいふらんあはれいふらん
あはれいふらんあはれいふらん

あはれいふらん

あはれいふらんあはれいふらん
あはれいふらんあはれいふらん
あはれいふらんあはれいふらん
あはれいふらんあはれいふらん

いそ紙うまの月紙紙まき會て志せ此山紙人紙
物んかそくし紙まき紙——まき紙海うらま
じ——の音開し紙紙

うのち紙紙のまき紙紙まきまきまきまきまきまき
鳥邊山し紙紙まきまきまきまきまきまきまき
うらまきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

うめて紙紙まきまきまきまきまきまきまきまき
同行まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
待賢門院まきまきまきまきまきまきまきまき

人まきのまきのまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
返——

まきのまきのまきまきまきまきまきまきまき
近侍院のまきまきまきまきまきまきまきまき
まきのまきのまきまきまきまきまきまきまき

まきのまきのまきまきまきまきまきまきまき
まきのまきのまきまきまきまきまきまきまき
まきのまきのまきまきまきまきまきまきまき
まきのまきのまきまきまきまきまきまきまき

~~~~~の~~~~~の~~~~~は右大臣  
~~~~~大納言~~~~~  
~~~~~又人~~~~~  
~~~~~の~~~~~  
~~~~~の~~~~~

~~~~~の~~~~~  
~~~~~の~~~~~  
~~~~~の~~~~~  
~~~~~の~~~~~  
~~~~~の~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

母のくさりて此書よらつてあつた人  
と知りてとひおて人のひらき  
くさりて

おちひさしき人のおちひさしきおちひさしき

ゆわありき人のおちひさしき  
くさりて

くさりてくさりてくさりてくさりて

父のくさりてくさりてくさりて

人よ

おちひさしき人のくさりてくさりて

おちひさしき人のくさりてくさりて

おちひさしき人のくさりてくさりて

くさりてくさりてくさりて

おちひさしき人のくさりてくさりて

又十日の果つて二條院のくさりて

佐世のくさりてくさりてくさりて

わうてくさりてくさりて

こちひさしき人のくさりてくさりて

仲次は三河内侍さうひさしき九月十三日

人よくさりて

くさりてくさりてくさりてくさりて

西

内侍

我々のくさりてくさりてくさりて

寄紅葉懷舊とくさりてくさりて

法金野院

よみかた

いふに... 諸君の御覧の如く... 御覧の如く... 御覧の如く...

十月中の十日比法金毘羅院の御葉... 上西門院あり... 御覧の如く...

御葉みかた... 御覧の如く... 御覧の如く...

色... 御覧の如く... 御覧の如く...

周防内務... 御覧の如く... 御覧の如く...

御覧の如く... 御覧の如く... 御覧の如く... 御覧の如く...

御覧の如く... 御覧の如く... 御覧の如く...











志しき事ありし其の遠征すやわらふそとてあきま  
あきまの道基野よりわらふねとて城を築きた  
那智のころわらへ瀧より堂志城よりよびよ  
一二の籠れりし由よりわらふまのころりし  
佐保の物よりよらへしとてまのころりし  
あきまの道基よりわらふねとて城を築きた  
しりあつらふらへかまのころりし二の籠の  
りしとてわらふねとてわらふねの籠れん  
しりあつらふらへかまのころりし  
うらへしとてわらふねとてわらふねとて  
しりあつらふらへかまのころりし  
の張の物よりわらふねとてわらふねとて

木の根よりわらふねとてわらふねとて  
わらふねとてわらふねとて

木の根よりわらふねとてわらふねとて  
同行の物よりわらふねとてわらふねとて  
しりあつらふらへかまのころりし

しりあつらふらへかまのころりし  
河局仁和寺よりわらふねとてわらふねとて  
しりあつらふらへかまのころりし  
わらふねとてわらふねとて  
しりあつらふらへかまのころりし

西の根よりわらふねとてわらふねとて  
しりあつらふらへかまのころりし

まじりしを海峽より月けは満るゑんも光る

疾迅入道談議とて用てつらうけり

いづれ

ひろ心らん法とあぬまきりしと名紙開抄といひ

いづれ

いづれ

親音寺入道生光

寺にらるゝの紙音よつらあまきりしとあまきり

いづれ

山を望みしつらあまきりしとあまきり

阿闍梨傍令千人あつたては花經法

縁をさせりつらあまきりしとあまきり

いづれ

いづれ

いづれ

いづれ

六波羅太政入道持經者千人あつたて

傑國つししとあまきりしとあまきり

そのつらあまきりしとあまきり

灯の消るる紙とあまきりしとあまきり

いづれ

ほねつよ法の光れりつらあまきりしとあまきり

天王寺へまわりつらあまきりしとあまきり

後への契のちこそふれわが糸井此水は親うしの  
んまふことありて扇紙佛よまのせり  
新院にわたりて女房来ては  
細よ申すれり

ありてははあはれ風をこゝにたかりて  
清い心しやうり

ちりりうらふんまうらんは紙あふりたひま  
ん性さすしと云事紙題うそ人こよみ  
くく

を存立あしめまやうひあわたりて付とまふんれ

藏悔業障とらふこと紙

申しひけりさうこれらやうまきく紙をうらうり

遇あ待龍花といふ事紙

朝日浴りてやこりあう有ぬ此月の影り  
寄あむと述懐

西段待んよ多紙けりてをそ此紫のま紙やあ  
見月思西とらふこと紙

山のまうらう月紙ましねん我もんねしにら  
晚念佛とらふこと紙

あまじふらねののふは打を毎に十方此紙  
易往無人乃文紙

西の月とやまうらうらんよのぬ人の紙  
人常不停速お山水の文乃ん紙

山川のまら水のととせし原を紙

芥心論乃至身命而不恠惜文也

あしきものやそとまじりよゆりたり人乃しあまする宗  
疏文よ心自悟心自覚心

ゆきひまきりゆりりうくまきりつらん然るらんこり  
観心

やとほくんの元よすむ月よす北山道からくさるん  
序品

あまふものよりひ紙を記そそ志紙に北道まきり  
世の善紙つり形か喚しめそまきり世のりつ  
方便品深著於立欲乃文紙

こりもせすうふ世の周よゆりよふ紙をそあふん  
譬喩品

はしぬん紙をげよとみろ三車よんひゆ

まきりまきり人の乃よ入十日のうらよ  
一品経供養り一なりよ化城喩品

やまむつよ常紙を中言れひまきり  
立百才子品

よのつりまきり紙をよみよけてむきり  
提婆品

らねやよ年つりゆりつり一はよあれまきり  
いりて周りゆりやまきり人の乃よまきり  
いりてまきり紙をよみよけていりあまきり

観持品

あまふこのつりまきり紙をよみよけていり

壽量品

ワレ山月紙よりぬきみくらうりよは海よりんちり  
きりりふんのみれ申されてワレなぬすむじき  
あまの徳よ一糸細供養一々々よ壽量  
品紙人よりんちり

きほふワレの清山の月け紙心もみそやきさうん  
一心欲見佛の文とんよみかたうり

ワレの山離る月紙みくらうりよは海よりんちり  
神力不於我滅度後の文紙

ワレ末のふみよきふのほさうりよは海よりんちり  
普賢品

あまの徳よ一糸細供養一々々よ壽量  
品紙人よりんちり

心經

あまの徳よ一糸細供養一々々よ壽量  
品紙人よりんちり

ワレの山とくくくの最なれとあまの徳よ一糸細  
和光同塵ハ結縁のうりよは海よりんちり

六道

いふれりりし海よりんちりよは海よりんちり  
六道のうりよは海よりんちり

餓鬼

衆人の志ありふのぬくりあまの徳よ一糸細  
餓鬼  
ワレの山とくくくの最なれとあまの徳よ一糸細

畜生



因申曉心とてしん経同長

聞の～何い申～とてりれてゆあるをたぬはむと  
事かよあれしむらりたる比定は下る時よ  
こりも終るしげわいのきまはひかてしるま  
小神もせしうりたる又乃おーしりる

ニよひもむみありさくらし海のさし味もむられ  
んまけしやほの若しすまむららり  
ゆりぬえやも神におんれりむすよむまゆ  
とこのいぢりいりかよと痛のまゆら  
くれし

かこりるよとれ高よそかりのりりしりふ黒漆の袖

阿闍梨益堅よ紙のわけてる野のいん  
ゆりうりあしぢぢぢ一仁和寺よ出こ  
のぬりもまゆらぬしんと僧總よあぬ  
とてしりしりしりしりしり

けいのあやうの世あは潔く毒の袂ととへして  
あさ比風りりひなるく紙筋とりたる遊と

消めつよ落の命も着るよとれもむとねあれれ  
のうへ

吹さるゆーむらむらりの秋は地もむらむら  
院の小侍は例するぬと大事よむら  
河へとー川ゆまかりと閉て落る

南にありては、  
より、  
如き、  
この、  
く、  
新に、  
同、  
籍、  
よ、  
い、  
わ、  
然、

は、  
の、  
く、  
新、  
い、  
く、  
の、  
の、  
年、  
疾、  
又、





















山溪を雲の下木にけりて  
深山不念まきりし

音もてと山を音の音にけりて  
さうな海もわらうらうら  
う涙まきりし

静思法師

さゆりもやとひくと流や  
さうな海もわらうらうら  
う涙まきりし

さひせりもやとひくと流や  
さうな海もわらうらうら  
う涙まきりし

とゆのゆりけりて

月をたゆめばゆりて  
國くめらわまきりし  
さうな海もわらうらうら  
う涙まきりし

さうな海もわらうらうら  
う涙まきりし  
さうな海もわらうらうら  
う涙まきりし  
さうな海もわらうらうら  
う涙まきりし

かりひはよむのこゝろみそくろくはれはれはれは  
うぬ

んこころこころみよこころこころこころこころ  
懐こころこころこころこころこころこころこころ  
かこころこころこころ

吹みから風よこころこころこころこころこころこころ  
寒こころこころこころこころこころこころこころ  
よこころこころこころこころこころこころこころ

お母よみこころこころこころこころこころこころこころ  
うぬ  
こころこころこころこころこころこころこころこころ  
夏こころこころこころこころこころこころこころこころ

すみけて下向こころこころこころこころこころこころ  
同いよこころこころこころこころこころこころこころ  
松の若田こころこころこころこころこころこころこころ  
こころこころこころこころこころこころこころこころ  
これこころこころこころこころこころこころこころこころ  
こころこころこころこころ

うぬこころこころこころこころこころこころこころこころ  
天王寺こころこころこころこころこころこころこころこころ  
こころこころこころこころこころこころこころこころ  
こころこころこころこころこころこころこころこころ  
こころこころこころこころこころこころこころこころ  
こころこころこころこころこころこころこころこころ

し

くみえなむく

う

くみえなむく

う

くみえなむく

う

くみえなむく

う

くみえなむく

う

くみえなむく

う

くみえなむく

う

くみえなむく

う

くみえなむく

う

くみえなむく

う

くみえなむく

う

くみえなむく

う

くみえなむく

う

人よしのつゝみよのちかたはなすけのちかたのちかたのちかた  
すけのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた  
あまのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた

歌

彼もよみ物わけのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた  
いへるちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた  
ちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた  
遠く旅立ちのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた  
いとよしのつゝみよのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた  
ちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた  
年ひのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた  
あふれゆく遠く旅立ちのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた

とよのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた  
いとよしのつゝみよのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた  
年ひのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた  
あふれゆく遠く旅立ちのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた  
海つちかた

つゝみよのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた  
あふれゆく遠く旅立ちのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた  
いとよしのつゝみよのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた  
あふれゆく遠く旅立ちのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた

あふれゆく遠く旅立ちのちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた

一 けりよ又海りまのぬいりりよとて  
 仁和二年十月十日のよ海りりて幣  
 ちりせりりゆくもまのぬいりりよとて  
 たれりの社よりのつりりまのぬいりり  
 しそんりりけりよ本回の月かぬいり  
 常りりりりりりりりりりりりりりり  
 一 海りりりりりりりりりりりりりりり  
 りりりりりりりりりりりりりりりりり  
 けりりりりりりりりりりりりりりりり





くそけい色のさうすけいもくしん  
ありのしんくさく

ありのしんくさく

けいしんくさくすけいもくしん  
けいしんくさくすけいもくしん

けいしんくさくすけいもくしん

けいしんくさくすけいもくしん

けいしんくさくすけいもくしん

けいしんくさくすけいもくしん

屏風やんくさくすけいもくしん

三重の籠がみくさくすけいもくしん

さくすけいもくしん

さくすけいもくしん

さくすけいもくしん  
ありのしんくさく

てんはは備のしんくさく

はのたのしんくさく

けいしんくさくすけいもくしん

けいしんくさくすけいもくしん

けいしんくさくすけいもくしん

けいしんくさくすけいもくしん

けいしんくさくすけいもくしん

けいしんくさくすけいもくしん

けいしんくさくすけいもくしん

けいしんくさくすけいもくしん

けいしんくさくすけいもくしん

けいしんくさくすけいもくしん



秋の暮るるに秋のくさかんと暮るるくさかんのさか

うへ

大宮の女房が賀

名紙とまて立出る空風吹けさ秋とらる旅の川  
とら湯のそよ風吹けさ秋とらる旅の川  
と箱くねくねと風をくわいささゆり  
人のこころ又くわいて

秋の暮るるに秋のくさかんと暮るるくさかんのさか  
うへ

ねね一人

くさかんと暮るるに秋のくさかんと暮るるくさかんのさか  
からのくさかんと暮るるに秋のくさかんと暮るるくさかんのさか  
のさかんと暮るるに秋のくさかんと暮るるくさかんのさか  
月やうららかに暮るるに秋のくさかんと暮るるくさかんのさか

白川の園屋は月のり秋のくさかんと暮るるくさかんのさか  
うへ

くさかんと暮るるに秋のくさかんと暮るるくさかんのさか  
くさかんと暮るるに秋のくさかんと暮るるくさかんのさか  
くさかんと暮るるに秋のくさかんと暮るるくさかんのさか  
くさかんと暮るるに秋のくさかんと暮るるくさかんのさか  
くさかんと暮るるに秋のくさかんと暮るるくさかんのさか

秋の暮るるに秋のくさかんと暮るるくさかんのさか  
くさかんと暮るるに秋のくさかんと暮るるくさかんのさか  
くさかんと暮るるに秋のくさかんと暮るるくさかんのさか  
くさかんと暮るるに秋のくさかんと暮るるくさかんのさか  
くさかんと暮るるに秋のくさかんと暮るるくさかんのさか

ぬきつらねの宮にけしきみまゝにまゝにひら  
 かりまゝにまゝにひらみからのまゝにまゝに  
 後りまゝにまゝにひらみ人のまゝに  
 しめまゝにまゝにひらみ人のまゝに  
 ぬきつらね  
 ぬきつらねの宮にけしきみまゝにまゝにひら  
 かりまゝにまゝにひらみからのまゝにまゝに  
 後りまゝにまゝにひらみ人のまゝに  
 しめまゝにまゝにひらみ人のまゝに  
 ぬきつらね

てあり

下野國にてはまの宮にみえりまゝに

ぬきつらねの宮にけしきみまゝにまゝにひら  
 かりまゝにまゝにひらみからのまゝにまゝに  
 後りまゝにまゝにひらみ人のまゝに  
 しめまゝにまゝにひらみ人のまゝに  
 ぬきつらね

ぬきつらねの宮にけしきみまゝにまゝにひら  
 かりまゝにまゝにひらみからのまゝにまゝに  
 後りまゝにまゝにひらみ人のまゝに  
 しめまゝにまゝにひらみ人のまゝに  
 ぬきつらね

とついでにひらきとれは島小島にのむのしりふハ  
あつて

何れもさういふ事しりたは縁をむかひたりと  
あつて

何れも此のさういふ事しりたは縁をむかひたりと  
新院さあつて

何れも此のさういふ事しりたは縁をむかひたりと  
水さういふ事しりたは縁をむかひたりと

何れも此のさういふ事しりたは縁をむかひたりと  
又女房つて

何れも此のさういふ事しりたは縁をむかひたりと  
何れも此のさういふ事しりたは縁をむかひたりと

何れも此のさういふ事しりたは縁をむかひたりと  
ういふ事しりたは縁をむかひたりと

何れも此のさういふ事しりたは縁をむかひたりと  
遠く修りしりたは縁をむかひたりと

何れも此のさういふ事しりたは縁をむかひたりと  
何れも此のさういふ事しりたは縁をむかひたりと

何れも此のさういふ事しりたは縁をむかひたりと  
何れも此のさういふ事しりたは縁をむかひたりと

何れも此のさういふ事しりたは縁をむかひたりと  
何れも此のさういふ事しりたは縁をむかひたりと

何れも此のさういふ事しりたは縁をむかひたりと  
何れも此のさういふ事しりたは縁をむかひたりと

女房六角局

志らむむらみよすくふ傷と名残の世すはなれ  
西國へ修りて悔りなきは小治り  
ふは八樓のいそれ路さわくくまこり  
くりくり年つて又その秋織みく  
ねとこのころあまきりさりなき織み  
昔かへ初老あまきりさりわ我年へさるれ  
山さしははらりてゆきく行のゆ乃  
疾はゆりして用いられ

行のよと疾くゆきく乳まくく  
世のこれくははらり人のかりは  
ては世のいそれすは  
しゆりくく行のくは織

くはりける織み

くはりける織み  
歌

あはれはわくあはれはわくあはれはわく  
さるるはらりくはらりくはらりくはらり  
いつのちくおはらりくはらりくはらり  
くはらり

山水のいりあはれはらりくはらりくはらり  
まはれはらりくはらりくはらりくはらり  
みはらりくはらり

秋はくはらりくはらりくはらりくはらり

松乃木のまきわつづつ月のひかり  
とみく月夜いこいこく道徳行ひ  
一〜成

くみく〜まじし〜あつたのあつた〜水も  
本法の細涼〜あつた〜成〜みく  
けり又松のゆあ〜と〜ゆん〜みく〜あつた  
入目新〜れ〜あつた〜月のあつた〜  
たれ〜

〜まら〜窓のつらり〜あつた〜あつた〜あつた  
月蝕と題〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
いじ〜い〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
東然入道大あ〜と〜と〜と〜と〜と〜と

大原のい〜ら〜ね〜ね〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら  
の〜魚〜

と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
さ〜野のあ〜は〜院の橋の〜と〜と〜と〜と〜と  
々〜れ〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り  
西行と人京へ出〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
り〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
西行と人  
と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
西入道西山の〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

せいふんやうらんはいつく  
からぬいりくのむねあり  
麻のむねのむねのむねのむね

志のむねのむねのむねのむね  
人あはれいりてむねのむね  
さむらいのむねのむねのむね  
いりて

一とらふいとむねのむねのむね  
陰陽のむねのむねのむねのむね  
りのむねのむねのむねのむね  
六月のむねのむねのむねのむね

我あはれいりてむねのむねのむね  
ゆりありむねのむねのむねのむね  
とらふいとむねのむねのむねのむね

りり川つるむねのむねのむねのむね  
あはれいりてむねのむねのむねのむね

はらむのむねのむねのむねのむね  
くくくくくくくくくくくくくく

屏風の繪紙のむねのむねのむね  
さむらいのむねのむねのむねのむね

いりてむねのむねのむねのむね  
あはれいりてむねのむねのむねのむね

いよよろしき御心におおしめておぼえうらねの御心よ  
庚申のよろしき御心におおしめておぼえうらねの御心よ  
古今後撰拾遺是球毒さくく山吹の  
よせらるる御心におおしめておぼえうらねの御心よ

古今毒よよ吹

ね乃色くく梅球おん此神よあふよ考やと御心  
後撰さくくくくくく

去乃乃あふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
拾遺山吹よよす

山吹のむ笑升よれさくくくくくくくくくくくくくくくく  
祝

山吹のむ笑升よれさくくくくくくくくくくくくくくくく

らくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
苗くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
びれきてさく升よれさくくくくくくくくくくくくくくくく  
海くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
大海のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
去乃代のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
去乃代は天津文のくくくくくくくくくくくくくくくくく  
いれさくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
去乃代はくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
あくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
竹の也ど去乃くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

よまはまはげそねころ人のかこいひつる  
ころころ

らもくよニ葉花松のせろをみう人かよむらげん  
又葉乃下よあそむるが小松よ一の傍々  
子日はあそむらくろ日せりのひよひきりて  
ついですそそそ

恙うこめこえう花日きろつろふひくちろねはほろ  
そのねひこきくそこ花松のよこしくあん  
そそ

わ日まらの花松よそあしつろねこえうねあそひく人  
あそひくあか（いし）おろちあまのあうくろ人  
のこまろりくろこねせのそ清水

越へてころわろりくろまほつろころころ  
ころまこえくこころころ  
是ころころ

あそひのあそびらひよそ花のほろまほれ花松  
八条院のまよころころせり白河殿よそひ  
あそびられくろころころころころあ入てころ  
出ころころあそ水は月のころわころころ  
はくろりそころねよみころ

ひと急の名よあそむ人まよま月とほろ  
二条院  
ゆよ貝あそむもよそとねろろろろ人  
ころころ

ゆころはあそむころころは小貝あそむそひろろ





あまのつゝきをえりて秋田此のこゝまでさす大泉此  
水のもは花はあふみりて秋田此のこゝまでさす此里  
あまのつゝきのこゝまでさす神のまゝとてさす此里  
山ゆゑみねのこゝまでさすこゝまでさす大泉此里  
ままたるかにはまはあふいふこゝまでさす此神のま  
際くふ門いふこゝまでさすひげささこゝまでさす此里  
りつゝきあまのつゝきあまのつゝきあまのつゝき

神樂、早秋

うけて出りこ山みねのあまのつゝき八月終つるんれ  
兼和元年六月一日院總野人まゝのせはさ  
ほいそよ行なるゆすあわらり終れし  
めらりて三日の秋は終つりけりしすの

あまのつゝきをえりて秋田此のこゝまでさす大泉此

兼院の清幸神と志出終らんよええぬ  
絶りてまゝ終つて終つて終つて終つて  
松のつゝきあまのつゝきあまのつゝき

いふの松のつゝきあまのつゝきあまのつゝき  
赤院がりまゝあまのつゝきあまのつゝき  
かゝりてあまのつゝきあまのつゝき

松のつゝきあまのつゝきあまのつゝき  
あまのつゝきあまのつゝきあまのつゝき  
あまのつゝきあまのつゝきあまのつゝき

とて舞人のかゝるまゝに  
しむぢりしすありまあそひの  
しむぢりしすありまあそひの  
しむぢりしすありまあそひの  
しむぢりしすありまあそひの  
しむぢりしすありまあそひの

糸の代はうりまゝなりと  
深きまゝに糸の代はうり  
まゝなりと

糸の代はうりまゝなりと  
深きまゝに糸の代はうり  
まゝなりと

糸の代はうりまゝなりと  
深きまゝに糸の代はうり  
まゝなりと

糸の代はうりまゝなりと  
深きまゝに糸の代はうり  
まゝなりと

糸の代はうりまゝなりと  
深きまゝに糸の代はうり  
まゝなりと

世中よ大車いりてこゝろ新院わね海  
くちもせおしし海にてゆくおら  
仁和寺の小院よがくし海くちよ  
まのししげんかんあまのししあひも  
月あつてよみかろ

かろはなほはなほうすまひ月とみかろ我身かろ  
とあまのしし海くち海くちよ  
よまのししあまのししあまのしし  
くちくちくちくち

この世あけ絶すおらよあわあまあま  
の海くちくちくちくちくちくち  
あまのししあまのししあまのしし  
あまのししあまのししあまのしし

車然

さあまのししあまのししあまのしし  
はつあまのししあまのししあまのしし  
女房のりくくくくくくくくくく  
若人不嗔打 以何修忍辱

世中あまのししあまのししあまのしし  
是つあまのししあまのししあまのしし  
あまのししあまのししあまのしし  
あまのししあまのししあまのしし  
あまのししあまのししあまのしし  
あまのししあまのししあまのしし  
あまのししあまのししあまのしし  
あまのししあまのししあまのしし

う海くち

女房



今いかに其のふろをほしませぬまけつらんかそのふろ  
 ぐらゐあつてあつて梅のふれやぬ白ひらひの竹の  
 けいよちちのけいよちとあられはちちぬはあだちち  
 消くちり言縁神をちちれあつちあつちつち人いかに  
 いかにせんそれ又月ぬのふれちちやえちちぬ神  
 まちちちちちちちちにあつちちちちぬはちちち  
 今いかにあつちとあつちと果てん今いかにあつちち  
 おろちのあつちちちちのちちちちちちちちち  
 うちちぬのあつちちちちのちちちちちちちちち  
 ひちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
 七たのあつちちちちちちちちちちちちちちちちち  
 ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

柳房よあつち神はちちちちちちちちちちちちちち  
 侍ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
 けいよちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
 あつちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
 今いかにあつちちちちちちちちちちちちちちちち  
 いちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
 袖の上れ人あつちちちちちちちちちちちちちちち  
 あつちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
 兼乃ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
 ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
 ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
 ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
 ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
 ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち











こゝに又我をみつけしと云れまほひりいふん行  
宮乃りりりりり

松の下に言ふられれ色うれもみま白物よみゆく山  
宮つみてあふあ守候と云れしと云れし松の  
宮つみかたの言は月とてぬと人言ふと云れし  
ゆふ色ハ事毎にとてさひは宮代と云れし  
れ一とわれれれと云れしと云れしと云れし  
申くは言の細なるも言ありとて人言ふと云れし  
と云れしと云れしと云れしと云れしと云れし  
と云れしと云れしと云れしと云れしと云れし  
と云れしと云れしと云れしと云れしと云れし

と云れしと云れしと云れしと云れしと云れし

と云れしと云れしと云れしと云れしと云れし  
と云れしと云れしと云れしと云れしと云れし  
と云れしと云れしと云れしと云れしと云れし

と云れしと云れしと云れしと云れしと云れし

又の宮乃り

ゆんごしの行道と云れしと云れしと云れし  
と云れしと云れしと云れしと云れしと云れし  
と云れしと云れしと云れしと云れしと云れし  
と云れしと云れしと云れしと云れしと云れし  
と云れしと云れしと云れしと云れしと云れし

ついでにこれらにわたりて一日に此  
の山にありて行道し一箇の  
くわと一箇のわたりて行道する  
のありて一日に二箇の山にあり  
のありて一日に三箇の山にあり  
のありて一日に四箇の山にあり

めりて一日に五箇の山にあり  
やそをこれらにわたりて行道す  
るありて一日に六箇の山にあり  
のありて一日に七箇の山にあり  
のありて一日に八箇の山にあり  
のありて一日に九箇の山にあり  
のありて一日に十箇の山にあり

一箇の山にありて一日に十一箇の山にあり  
のありて一日に十二箇の山にあり  
のありて一日に十三箇の山にあり  
のありて一日に十四箇の山にあり  
のありて一日に十五箇の山にあり  
のありて一日に十六箇の山にあり  
のありて一日に十七箇の山にあり  
のありて一日に十八箇の山にあり  
のありて一日に十九箇の山にあり  
のありて一日に二十箇の山にあり

善通寺の大師の湯敷はくわんよ  
あけく大師の湯師くわんよ

大師の法はねたはる海は回のにたて  
 かくつれそあまのいひいひいひ  
 物さよそえよいそあまのいひいひ  
 およつのおくあまのいひいひ  
 備前國一 小島一 嶋よいひいひ  
 くらよあまのいひいひいひいひ  
 けれくちあまのいひいひいひいひ  
 ていひいひあまのいひいひいひ  
 だ一のいひいひいひいひいひ  
 うさあまのいひいひいひいひいひ  
 しいいひいひいひいひいひいひ  
 りれくちあまのいひいひいひ

大御方のみはるはねたはる海は回のにたて  
 ひいあまのいひいひいひいひいひ  
 らんいひいひいひいひいひいひ  
 くのいひいひいひいひいひいひ  
 あまの物はひらいたまのいひいひ  
 一のいひいひいひいひいひいひ  
 ちいひいひいひいひいひいひ  
 すまのいひいひいひいひいひいひ  
 いひいひいひいひいひいひいひ  
 えいひいひいひいひいひいひ  
 すまのいひいひいひいひいひいひ  
 ちいひいひいひいひいひいひ



よとのありまわりしてころいふおちりく  
とぬくり紙よりありあつる紙のうらみか  
ふのまへへとあつるころいふおちり  
しつるれいりひあつるころいふおちり  
しつるれいりひあつるころいふおちり  
しつるれいりひあつるころいふおちり

今とちつあつる紙は海より紙のわらをもあつる  
りしつるれいりひあつるころいふおちり  
くりよあつる紙のわらをもあつるころいふ  
しつるれいりひあつるころいふおちり  
みえ

のころいふおちり

仲のころいふおちり  
り紙つりつる紙のわらをもあつるころいふ  
しつるれいりひあつるころいふおちり  
あつる紙のわらをもあつるころいふ  
くりよあつる紙のわらをもあつるころいふ  
しつるれいりひあつるころいふおちり  
しつるれいりひあつるころいふおちり  
しつるれいりひあつるころいふおちり  
しつるれいりひあつるころいふおちり  
しつるれいりひあつるころいふおちり

しつるれいりひあつるころいふおちり







勝のつらきれはらあぬこゝろなりてね  
らちちのみさうらちちつらみち

あれはらはらあぬこゝろ昔の  
おんつらみち

其れはらはらあぬこゝろはらはら  
ゆりて離るゝあてかえんいつら山道は  
これ行のいまいさあふくつら  
そのすらはらあぬこゝろ  
みちちらちらあぬこゝろ  
さうらあぬこゝろ  
つらあぬこゝろ  
みちつらあぬこゝろ

おんつらあぬこゝろ  
あぬこゝろ  
おんつらあぬこゝろ  
あぬこゝろ  
おんつらあぬこゝろ  
あぬこゝろ  
おんつらあぬこゝろ  
あぬこゝろ

おんつらあぬこゝろ  
あぬこゝろ



むらうくゆらうこれら紙のめあ  
うらうらうかまうこれけあんまうけうんま  
いそらみそけひられてうまげうこれ行をあら  
わら

百首

七十首

うた山を此あう一本此うまうあうん六我紙係らん  
うた山を此梅雪をあらうん抱をまこれうすま  
うみあううた山入りぬあう此れまうれはあん  
うらう人ままう山梅は紙をあらうんあうんあう六  
山梅雪あう同てみまはん人あうあうんあう

山梅りゆみあう白いあううり紙をうあれて  
もの言れをうううううううううううううう  
うあううあう此あうの紙の面を此あうううまのうう  
うう此あうう此あうまうすもをうううううう  
紙まううを紙まううううあう山うあううひまうあう

部う十首

あんうまああうう此あう紙あうううをううう部う  
ううあうううまうをう部うあううううううう  
まうをう人あうひう此あうううううううう  
ううううううううう部ううううううううう  
ううう紙同を此のうううううううううう  
又月あのをれまあうう部うううううううう

都多うて國の無きりたりあつたよしの暁の  
何きあつたよしの無きりたりあつたよしの  
よりのよりの無きりたりあつたよしの  
何きあつたよしの無きりたりあつたよしの

月十一首

月十一首の無きりたりあつたよしの  
何きあつたよしの無きりたりあつたよしの  
よりのよりの無きりたりあつたよしの  
何きあつたよしの無きりたりあつたよしの

月十一首の無きりたりあつたよしの  
何きあつたよしの無きりたりあつたよしの  
よりのよりの無きりたりあつたよしの  
何きあつたよしの無きりたりあつたよしの

音十首

音十首の無きりたりあつたよしの  
何きあつたよしの無きりたりあつたよしの  
よりのよりの無きりたりあつたよしの  
何きあつたよしの無きりたりあつたよしの

あまのく ちかたまのまはら 一とてゆとめてんくを  
く 一とてまはら 一とてあつたまはら 一年成つてま

恋十首

あまのまはら 一とてあつたまはら 一年成つてま  
あまのまはら 一とてあつたまはら 一年成つてま  
あまのまはら 一とてあつたまはら 一年成つてま  
あまのまはら 一とてあつたまはら 一年成つてま  
あまのまはら 一とてあつたまはら 一年成つてま  
あまのまはら 一とてあつたまはら 一年成つてま  
あまのまはら 一とてあつたまはら 一年成つてま  
あまのまはら 一とてあつたまはら 一年成つてま  
あまのまはら 一とてあつたまはら 一年成つてま  
あまのまはら 一とてあつたまはら 一年成つてま

あまのまはら 一とてあつたまはら 一年成つてま

恋十首 一首百首

あまのまはら 一とてあつたまはら 一年成つてま  
あまのまはら 一とてあつたまはら 一年成つてま  
あまのまはら 一とてあつたまはら 一年成つてま  
あまのまはら 一とてあつたまはら 一年成つてま  
あまのまはら 一とてあつたまはら 一年成つてま  
あまのまはら 一とてあつたまはら 一年成つてま  
あまのまはら 一とてあつたまはら 一年成つてま  
あまのまはら 一とてあつたまはら 一年成つてま  
あまのまはら 一とてあつたまはら 一年成つてま  
あまのまはら 一とてあつたまはら 一年成つてま

無常十首

あはれおのゝみぢの昔もあはれおのゝみぢの昔もあはれ  
あはれおのゝみぢの昔もあはれおのゝみぢの昔もあはれ  
あはれおのゝみぢの昔もあはれおのゝみぢの昔もあはれ  
あはれおのゝみぢの昔もあはれおのゝみぢの昔もあはれ  
あはれおのゝみぢの昔もあはれおのゝみぢの昔もあはれ  
あはれおのゝみぢの昔もあはれおのゝみぢの昔もあはれ  
あはれおのゝみぢの昔もあはれおのゝみぢの昔もあはれ  
あはれおのゝみぢの昔もあはれおのゝみぢの昔もあはれ  
あはれおのゝみぢの昔もあはれおのゝみぢの昔もあはれ  
あはれおのゝみぢの昔もあはれおのゝみぢの昔もあはれ

神祇十首

神祇十首

あはれおのゝみぢの昔もあはれおのゝみぢの昔もあはれ  
あはれおのゝみぢの昔もあはれおのゝみぢの昔もあはれ

賀茂二首

あはれおのゝみぢの昔もあはれおのゝみぢの昔もあはれ  
あはれおのゝみぢの昔もあはれおのゝみぢの昔もあはれ

男山二首

あはれおのゝみぢの昔もあはれおのゝみぢの昔もあはれ  
あはれおのゝみぢの昔もあはれおのゝみぢの昔もあはれ

教中會

あはれおのゝみぢの昔もあはれおのゝみぢの昔もあはれ  
あはれおのゝみぢの昔もあはれおのゝみぢの昔もあはれ

然那二首

あはれおのゝみぢの昔もあはれおのゝみぢの昔もあはれ  
あはれおのゝみぢの昔もあはれおのゝみぢの昔もあはれ

みりすゝ二首

神をよむ御影さす御乳をみて月を先をみす流の  
みりすゝ此を何よとてあてりてあてりて文様

釋教十首

三首

はらへし心もなほまじりひらりてあてりて  
ひきくまひりてつるまじりてあてりて  
まじりてあてりてあてりてあてりて  
まじりてあてりてあてりてあてりて

甘き量度經 三首

まじりてあてりてあてりてあてりて  
山偏つりてあてりてあてりてあてりて  
あてりてあてりてあてりてあてりて

千の煙 三首

あてりてあてりてあてりてあてりて  
あてりてあてりてあてりてあてりて  
あてりてあてりてあてりてあてりて

又一首 ころん球

あてりてあてりてあてりてあてりて  
あてりてあてりてあてりてあてりて

あてりてあてりてあてりてあてりて

雜十首

あてりてあてりてあてりてあてりて  
あてりてあてりてあてりてあてりて  
あてりてあてりてあてりてあてりて



龍ありてはあはれなるに我道とみらんゆゑなり  
けりては思ふにわづらひなるにわづらひなるに  
さぬくの長あつてはわづらひなるにわづらひなるに  
山々のすゑなるにわづらひなるにわづらひなるに  
山々のすゑなるにわづらひなるにわづらひなるに  
月よりのすゑなるにわづらひなるにわづらひなるに  
波よりのすゑなるにわづらひなるにわづらひなるに  
はるばるなるにわづらひなるにわづらひなるに

